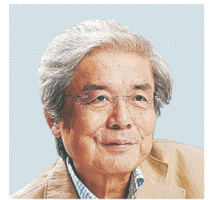


森里海に学ぶ

大正大と三陸の連帯

- 9 -



養老 孟司さん

●共通した発想

海山里の連帯を考えると高いのは、京都大学の人たちの発想である。他方、東京では

こういう一致は偶然ではないのかも。学問では、ものごとくしとの関係性である。医学でもいまではそ

は、ものごとくしとの関係性である。医学でもいまではそ

●過度な清潔さ

花粉症やアトピー、あるいは自己免疫疾患のようなアレルギー性の病気が増えてきたことはご存じであろう。いまからまた花粉症の季節だが、都会の人が花粉症になりやすいのに、昔から花粉に接している田舎の人に花粉症が少な

●他者ではない

私たちの腸内には100兆の細菌が住んでいるという。それが単調化すると、さまざまな病気を起こす可能性がある。そういうことも知られるようになった。あるいはヒトのゲノムの1割以上がウイルス由来だとわかってきている。それならウイルスは他者ではない。見ようによっては私たちが自身である。

関係性読み解く目必要

当時慶応大学教授だった岸田二さんが流域学を提唱されていた。どちらも似たようなことだと、お気づきであろう。さらに東北では、気仙沼の畠山重篤さんが「森は海の恋人」というキャッチフレーズで、実地に活動をされてきた。沼の畠山重篤さんが「森は海の恋人」というキャッチフレーズで、実地に活動をされてきた。

これまでの科学は因果律で考える習慣がついていた。そこから落ちてしまいがちなのではないか。

私たちが自身である。同大と河北新報社との連携事業の一環です。



大正大(東京)が宮城県南三陸町で行った出前講座、東京で開く公開講座の内容を担当講師が月1回報告します。